

# 日本民俗学会 第67回年会 兵庫

## 第1回 サーキュラー

日本民俗学会第67回年会を下記の要領で開催いたします。今回は、兵庫県西宮市において開催いたします。年会の全体テーマは、「世界のなかの民俗学」です。一般研究発表につきましては、このテーマに関わるものはもちろん、多様なテーマによるご発表を歓迎いたします。

本年度は、通常の研究発表に加えて、ミニシンポジウム「日本のなかの東アジア、東アジアのなかの日本：民俗学から多文化を考える」、「拡大する民俗学：近現代史をとりこむ試み」、「日本民俗学と妖怪・怪異伝承研究」を実施するほか、見学会も「兵庫（柳田國男生家・生野銀山）コース」、「大阪（都市民俗）コース」の2コースを用意します。

充実した年会をめざしますので、皆様奮ってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

日本民俗学会会長 小熊 誠

**日程** 2015年10月10日（土）・11日（日）・12日（月・祝）

**会場** 関西学院大学（西宮市上ヶ原一番町1-155）

※ 宿泊等の斡旋は行いません。各自お調べの上、お早めにお申し込みください。本年度の日程は三連休と重なっており、宿泊施設の不足が予想されますので、早めの予約をお願いいたします。昨年度の年会では、宿泊施設の不足のため、参加申し込みをされていたにもかかわらず、年会参加を取りやめる方もおられました。そのような事態にならないようご注意ください。なお、宿泊地は、大阪梅田、神戸三宮が便利です。

**会場アクセス** 梅田駅・神戸三宮駅から阪急神戸線に乗り、西宮北口駅で阪急今津線（宝塚行き）に乗り換えて甲東園駅下車。関西学院方面行き阪急バスで3つ目「関西学院前」下車。または、JR西宮駅から阪急バス甲東園行きで「関西学院前」下車（所要約20分）。JR西宮駅からタクシーを利用される場合は、会場まで1300円程度です。なお、会場への経路図等は、第3回サーキュラーに掲載します。また、関西学院大学のホームページもご参照ください。

**年会事務局** 関西学院大学社会学部 島村恭則研究室 気付

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155  
Tel 0798-54-6192 Fax 0798-51-0955  
E-mail minzokugaku67@gmail.com  
URL <http://www.nenkai.fsjnet.jp/>

**プログラム**

**10日(土)**

9:30 ~ 10:00 理事会  
10:15 ~ 12:00 評議員会  
12:00 ~ 受付開始  
13:00 ~ 16:30 公開シンポジウム「世界のなかの民俗学」  
16:40 ~ 17:50 研究奨励賞授賞式・会員総会  
18:30 ~ 20:30 懇親会(淡路人形浄瑠璃の上演を予定)

**11日(日)**

9:00 ~ 受付開始  
9:30 ~ 12:00 研究発表・ミニシンポジウム(午前)  
12:00 ~ 13:00 昼食  
13:00 ~ 16:30 研究発表・ミニシンポジウム(午後)  
研究発表終了後 播州の屋台祭礼見学

**12日(月)**

9:00 ~ 16:00頃 見学会  
兵庫(柳田國男生家・生野銀山)コース  
大阪(都市民俗)コース

※ 11日の開始・終了時刻は現時点での予定です。発表プログラムの確定する8月下旬に最終決定し第3回サーキュラーでお知らせいたします。

**参加申し込み**

参加・発表を希望される方は、オンライン申し込みフォームよりお申し込みいただくか、同封の返信はがきに切手を貼ってご投函ください。  
オンライン申し込みフォームのアドレス

<http://www.nenkai.fsjnet.jp/>

「日本民俗学会ホームページ」→「第67回日本民俗学会年会ホームページ」→「参加登録」の順でたどり着くことができます。

はがきの場合の期限は2015年6月12日(金)必着とします。

オンラインの場合は2015年6月12日(金)24:00までに送信ください。

参加・発表の申し込みは、オンラインか返信はがきかのどちらか一方でお願いいたします。なお、できるだけオンラインでの申し込みをお願いいたします。

※ 返信はがきを、住所変更通知など、年会業務とは無関係な連絡には利用なさらぬようお願い申し上げます。

※ お送りいただいた個人情報については、第 67 回年会にかかわる事務においてのみ利用し、別の用途に利用することはありません。

#### 参加費

年会参加費 4000 円（当日 5000 円）

懇親会参加費（予定額） 5000 円（当日 6000 円）・学生 4000 円（当日も）

見学会参加費（予定額） 5000 円（交通費・食事代等を含む）

※ 年会参加費・懇親会費・見学会参加費ともに納入期限は 8 月 7 日（金）です。期日にて振込み口座を閉鎖いたしますので、以降は当日にお支払いください。

※ 一度納入いただいた参加費はいかなる理由があっても返却いたしません。あしからずご了承ください。

※ 参加登録をしていながら、参加がなくなくなった場合、10 月 3 日（土）までに E-mail にて年会事務局に必ずご連絡ください。連絡がない場合で万一、未納金等がある場合、年会終了後に請求し、お支払い頂きます。

※ 納入方法は、6 月下旬に参加申込者に送付する第 2 回サーキュラーにてお知らせいたします。

#### 研究発表形式

##### 一般発表

- ・ 発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。
- ・ 一般発表を行う方は、オンライン、もしくは同封の返信はがきにてお申し込みください。
- ・ 発表内容は、日本民俗学会および関連する諸学会等において、未発表のものに限ります。重複発表が判明した場合は、参加費の納入の如何にかかわらず、発表をお断りすることとなります。
- ・ 最大発表枠は、グループ発表と合わせて約 100 となっております。
- ・ 備え付けの機材は、PC (Windows)、PC 用液晶プロジェクター、書画カメラです。LAN の設備はございません。使用を希望される方は、オンライン申し込み画面、または返信はがきの所定欄にチェックをお願いいたします。
- ・ 発表の形式によっては、備え付けの PC で対応できない場合があります。

- ・ PC (Windows、Mac) の持ち込みも可能です。その場合は、アダプターもご持参ください。

#### グループ発表

- ・ 統一テーマのもとで 3 名もしくは 4 名の発表者からなるグループ発表を受け付けます。うち一人をグループ発表の代表者としてください。
- ・ グループ発表の場合、代表者の方だけでなく、その他の発表者の方も「研究発表申し込み」を行っていただきます。オンライン、もしくは同封の返信はがきにてお申し込みください。
- ・ グループ発表の時間枠は一律 90 分となります、枠内の時間配分は代表者にお任せいたします。
- ・ グループには適宜、司会を設定していただくことができます。司会自体の登録は必要ございませんが、プログラムへの記載もいたしません。なお、学会側からの座長の配置はいたしません。
- ・ グループ発表で使用できる機材は一般発表に準じます。

※ 個人発表とグループ発表、両方での発表はできません。

#### 発表資格について

- ・ 日本民俗学会会員であり、今年度会費納入済の方が申し込み資格者となります。
- ・ さらに、期限 (8 月 7 日) までに年会参加費の納入および発表要旨の提出を済ます必要があります。期限を過ぎると自動的にキャンセルとなりますので十分ご注意ください。

#### 書籍販売の申込み

会員および出版社の方が、会場での書籍の販売を希望される場合、9 月 18 日 (金) までに、第 2 回サーキュラーに同封する「書籍販売登録票」(年会ホームページにも掲載します) にご記入の上、事務局あて郵送、もしくはメール添付ファイルでお送りください。

#### 今後の予定

**オンライン申し込み期限** 6 月 12 日 (金) 24:00

**返信はがき郵送期限** 6 月 12 日 (金) 必着

**第 2 回サーキュラー** 6 月下旬発送予定

内容：発表要領、発表要旨執筆依頼 (発表予定者のみ)、会費納入要項、その他年会参加に関する連絡事項、書籍販売申し込み要領、出張依頼状の同封 (希望者のみ)

**参加費等納入期限** 8 月 7 日 (金) これ以降は当日料金になります。

**発表要旨提出期限** 8 月 8 日 (土)

### 第3回サーキュラー 9月上旬発送予定

内容：各発表会場プログラム、会場案内、発表案内

書籍販売申し込み期限 9月18日（金） 書籍販売登録票提出

#### 公開シンポジウム

日本に民俗学があるのと同様に、世界のあちこちに民俗学という学問が存在します。日本民俗学の草創期、柳田國男は海外、とりわけヨーロッパの民俗学の動向を十分把握した上で、日本の民俗学の樹立につとめました。その後、日本の民俗学は、国内において独自の展開をみることとなりましたが、一方、世界各地の民俗学も、それぞれの国において発展をして今日に至っています。このシンポジウムでは、日本と世界の民俗学の新たなあり方を、世界各地の民俗学の動向を視野に入れながら模索してゆくべく、ドイツ、アメリカから世界民俗学の第一線で活躍している民俗学者を招聘し、「世界のなかの民俗学」について考えます。日本民俗学再活性化へのヒントが得られるシンポジウムをめざします。

テーマ 世界のなかの民俗学

日時 2015年10月10日（土）13:00～16:30

会場 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス

#### 基調講演

「過去の大志と現在の必要：変容する政体における民俗学」

レギーナ・ベンディクス（独・ゲッティンゲン大学）

「アメリカ民俗学から見た日本民俗学」

マイケル・フォスター（米・インディアナ大学）

#### コメンテーター

桑山敬己（北海道大学）・山田仁史（東北大学）

山 泰幸（関西学院大学）

#### 司会

島村恭則（関西学院大学）

レギーナ・ベンディクス氏の講演は、英語（日本語字幕付き）で行われ  
ます。

#### プレシンポジウム（第881回 日本民俗学会談話会）

テーマ 世界のなかの民俗学

日時 2015年7月12日（日）13:30～17:00

会場 関西学院大学大阪梅田キャンパス（JR大阪駅下車10分）

## 発表

「グローバル民俗学」の構想：柳田國男の「世界民俗学」の今日的展開として」（仮題）

上杉富之（成城大学）

「民俗学の脱土着化への試みと課題」

川森博司（神戸女子大学）

## コメンテーター

渡邊欣雄（國學院大學）

## 司会

島村恭則（関西学院大学）

## ミニシンポジウム

年会 2 日目の 10 月 11 日（日）、一般研究発表と並行して、以下の 3 つのミニシンポジウム（実行委員会企画）の開催を予定しています。パネリスト・報告テーマの詳細については、第 3 回サーキュラーでお知らせします。

1. 「日本のなかの東アジア、東アジアのなかの日本：民俗学から多文化を考える」  
コーディネーター：松尾恒一（国立歴史民俗博物館）
2. 「拡大する民俗学：近現代史をとりこむ試み」（仮題）  
コーディネーター：高岡弘幸（福岡大学）
3. 「日本民俗学と妖怪・怪異伝承研究」（仮題）  
コーディネーター：大江 篤（園田学園女子大学）

## 見学会のご案内

次の 2 コースがあります。参加ご希望の方は、1 と 2 のうち、どちらか一つを選んで、オンラインもしくは返信はがきでお申し込みください。ただし、申込者の人数によっては、実施できない場合があります。

1. 12 日（月・祝） 兵庫（柳田國男生家・生野銀山）コース（貸切バス使用）  
9：30 阪急西宮北口駅集合－車中説明（兵庫の民俗文化の紹介）－柳田國男生家・松岡家記念館・大庄屋三木家・『故郷七十年』関連の地－生野銀山・口銀谷銀山町－16：30 JR 姫路駅解散  
案内：大江 篤（園田学園女子大学）

## 2. 12日（月・祝）大阪（都市民俗）コース（全行程徒歩）

9：30 JR天王寺駅東口集合－庚申堂－四天王寺－安居神社－天神坂－一心寺（納骨堂）－合邦が辻・閻魔堂－新世界－通天閣－ジャンジャン横丁－16：30 地下鉄御堂筋線動物園前駅解散

案内：田野 登（大阪民俗学研究会）

なお、上記の見学会とは別に、11日（日）の夕方（研究発表終了後）、播州の屋台祭礼（高砂市荒井神社・高砂神社の屋台練りなど）見学へのご案内も実施します。ご希望の方は、年会当日、会場の掲示をご覧の上で、お申し込みください。

### 氏名・所属の表記について

すでに会誌『日本民俗学』や日本民俗学会ホームページに掲載してお知らせしてありますとおり、第29期理事会は、2014年7月13日に「日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明」を公表しております。

この声明にもとづき、本年度の年会から、参加登録の際の記名、名札、『研究発表要旨』、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、各人の帰属意識に基づいて主体的かつ自由に表明していただくことになりました。

したがって、参加登録の際の「所属」欄をはじめ、『研究発表要旨』、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、たとえば、つぎのようにお願いいたします。なお、所属・肩書き・立場性の表明は、原則としてお一人一つでお願いします。

例：山田 太郎（〇〇市立博物館）、山田 花子（〇〇大学大学院生）、山田 太郎（〇〇民俗学研究会）、山田 花子（〇〇県）、山田 太郎（NPO 法人〇〇）、山田 花子（自営業）、山田 太郎（株式会社〇〇）、山田 花子（会社員）、山田 太郎（インディペンデント・フォークロリスト）、山田 花子（〇〇大学非常勤講師）ほか。

### <ご参考> 日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明

日本民俗学会は、多様な社会や組織に帰属し、多様な帰属意識を有する人びとによって生み出され、発展されてきた歴史をもつ。この会員の属性、帰属意識の多様性は、現在でも顕著であり、日本民俗学会の大きな特徴となっている。私たちは、この会員の属性、帰属意識の多様性を尊重する。

さらに私たちは、日本民俗学会の活動の場において、会員が自己の所属、肩書き、立場性等を、各人の帰属意識に基づいて主体的に表明する自由を保障する。

2014年7月13日

第29期日本民俗学会理事会